

2019 年度事業報告書

2017-22年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

国立大学法人 名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター





名古屋工業大学は、平成26年文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」（3ヶ年）の採択を受け「男女共同参画推進センター」を発足させると同時に、全学体制で女性研究者支援に着手しました。平成28年度末までの3年間に、多様な女性研究者支援の仕組みを立ち上げるとともに、それらを軌道に乗せ、学内の意識改革を加速させました。さらに、第1期の事業完了後は、直ちに成果を踏まえた継続事業の提案を行い、平成29年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」（6ヶ年）の採択も実現しました。これに伴い、「男女共同参画推進センター」を「ダイバーシティ推進センター」へと再編し、従来の仕組みを強化するとともに、新たな取り組みも多数開始しました。また、センターの公式英語名称として、NITech Center for Diversity & Inclusionを採用し、多様性の推進だけでなく、多様な人材の個々の特質を最大限活かすことで組織全体の力を高める「インクルージョン」の方針も明らかにしています。

2019年度は、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」事業3年目を迎えました。地域産業界と連携した多様性人材育成プログラム「NITech CAN」の構築、女性教員管理職比率、及び女性研究者新規採用割合の増加、女性研究者を代表者とする科研費採択率の増加など、事業所期の目標の大半をこれまでに達成したことが評価され、本学は事業中間評価において、「総合A評価」を受けました。

今後は、女性研究者がこれまで以上に大きな可能性を追求する場を拡げるため、本学の産学連携の豊富な実績を活かし、工学分野の女性教員・女性研究者の地域連携、共同研究・共同開発を一層推進していきたいと考えております。また、本事業における女性研究者支援の一層の充実、次世代を担う工学女性研究者の裾野拡大とともに、人種・国籍・性別・文化・宗教などを問わずに有能な人材が伸び伸びと活躍できる研究環境の構築に邁進していく所存です。

このたび、本年度の取組を「2019年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）事業報告書」としてまとめました。ご高覧いただき、本学的女性研究者支援について忌憚のないご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。工学の未来を拓く女性研究者の育成にお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

2020年3月

名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター長
呉 松竹

目次

ご挨拶	1
I. 名古屋工業大学のダイバーシティ推進	
1 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言	6
2 ダイバーシティ推進センター	7
3 工学系女性の着実なキャリアアップを支援	
(1) 多様性人材育成プログラムNITech CAN for ID	8
(2) NITech CANの取組	9
4 多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組	10
5 産学連携による取組	
(1) ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾	12
(2) 産業論	13
II. 2019年度事業実施報告	
1 意識啓発	
(1) トップセミナー	16
(2) ダイバーシティ推進シンポジウム	16
(3) 第3回F D研究会「LGBTQ学生が安心して学べる環境づくりのために」	17
2 研究者支援	
(1) 研究支援員制度	18
(2) 女性研究者メンター制度・メンター研修	18
(3) 女性が拓く工学の未来賞	19
(4) 女性研究者研究促進制度	20
(5) NITech CAN「女性研究リーダー養成塾」	22
(6) 女性研究者・技術者の会 ランチミーティング	23
(7) NITech CAN キッズプログラム	23
(8) ライフイベント支援	24

3	次世代育成	
	(1) NITech CAN「工学女子キャリア形成塾」	26
	(2) 全学に向けたダイバーシティ教育	27
	(3) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」	28
	(4) 女子学生団体「彩綾～SAYA～」	29
	(5) 女子学生向けオープンキャンパスとテクノフェスタ	29
	(6) 小牧市「キッズラボ～わくわく大作戦～」	30
	(7) 大府市男女共同参画学習会	30
4	情報発信	
	(1) 育児と介護のためのハンドブック	31
	(2) ダイバーシティ研究環境を目指して	
	—多様な性を理解するためのLGBT+ハンドブック—	31
	(3) ニュースレター	32
	(4) ダイバーシティ推進センターウェブサイトリニューアル	32

1. 名古屋工業大学のダイバーシティ推進



1 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言



2 ダイバーシティ推進センター



3 工学系女性の着実なキャリアアップを支援

- (1) 多様性人材育成プログラムNITech CAN for ID
- (2) NITech CANの取組



4 多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組



5 産学連携による取組

- (1) ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾
- (2) 産業論

名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言

ダイバーシティ推進センターは、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分発揮し活躍できる環境の整備を最優先課題としており、その実現のための意識変革に積極的に取り組んでいます。

2017年11月に「名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言」を公開し、ダイバーシティ研究環境の実現に向けて全学体制で臨んでいます。

名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言

2017年11月22日

名古屋工業大学は、「ものづくり ひとづくり 未来づくり」という教育理念を目標に掲げ、グローバルに活躍する「実践的工学エリートの養成」をめざしています。社会のあらゆる分野でダイバーシティの価値が認識され、その推進と活用が求められている現在、本学は、目標達成を確実にするための最優先課題として、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分発揮し活躍できる環境の整備とそれを実現するための意識変革を掲げます。

本学は、多くの優れた女子学生を育成し価値ある技術者として産業界へ輩出すること、そして多くの女性研究者を工学コミュニティの自立した一員として招き入れその活動を弛まず支援することを工学におけるダイバーシティ推進の基盤と位置付けます。その基盤の上に、本学は長年培ってきた産業界との連携を含めた戦略的なダイバーシティマネジメントを通じて、多様な人材活用〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現をめざします。

本学における〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉とは、人種、性別、年齢などの違いだけでなく、宗教、母語、文化・社会的背景などの内面的な差異をも含めた、多様な違いを受け入れて活かすことにより、組織全体の強靭さを高め、さらにはイノベーション創出に繋げることをめざすものです。

これらの理念・目標を踏まえ、名古屋工業大学はダイバーシティに基づくオープンイノベーションの実現に貢献するため、以下の基本方針を掲げて積極的に活動することを宣言いたします。

基本方針

1. ダイバーシティ推進の視点に立った教育・研究環境の整備を行う
2. ダイバーシティ推進とその活用の観点から、全構成員の労働環境の整備を行う
3. 〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現に向けた意識変革に努める

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センターは、2017年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択されたことを受け、男女共同参画推進センターの発展的再編を経て、2017年10月に発足しました。

2014-2016年度「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の下で構築した従来の女性研究者支援の取組をさらに進化・拡大する「多様性人材育成プログラムNITech CAN for ID」を新たに構築し、研究者支援と次世代育成を主軸とする取組を幅広く継続的に実施しています。



(1) 多様性人材育成プログラム NITech CAN for ID

あらゆるステージの女性工学人材を育成対象に

本学は、文部科学省人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」の下で、研究に従事しながらもこれまでキャリア形成の対象ではなかった非常勤研究員にも注目し、将来有望な女性研究員を発掘して支援の対象から漏らさず育成し、女性研究者に着実なキャリアアップの道筋を作る「多様性人材育成プログラム：NITech CAN for Innovative Diversity」を構築しました。

「多様性人材育成プログラム：NITech CAN for ID」とは、本学が長年培ってきた産学官連携の実績を背景に、工学分野のダイバーシティを高めるために必要な、「知る=Comprehending、行動する=Acting、繋がり、広げる=Networking」の3つの指針を産業界と大学が一体となって遂行するしくみです。

多様性人材育成プログラム NITech CAN for Innovative Diversity

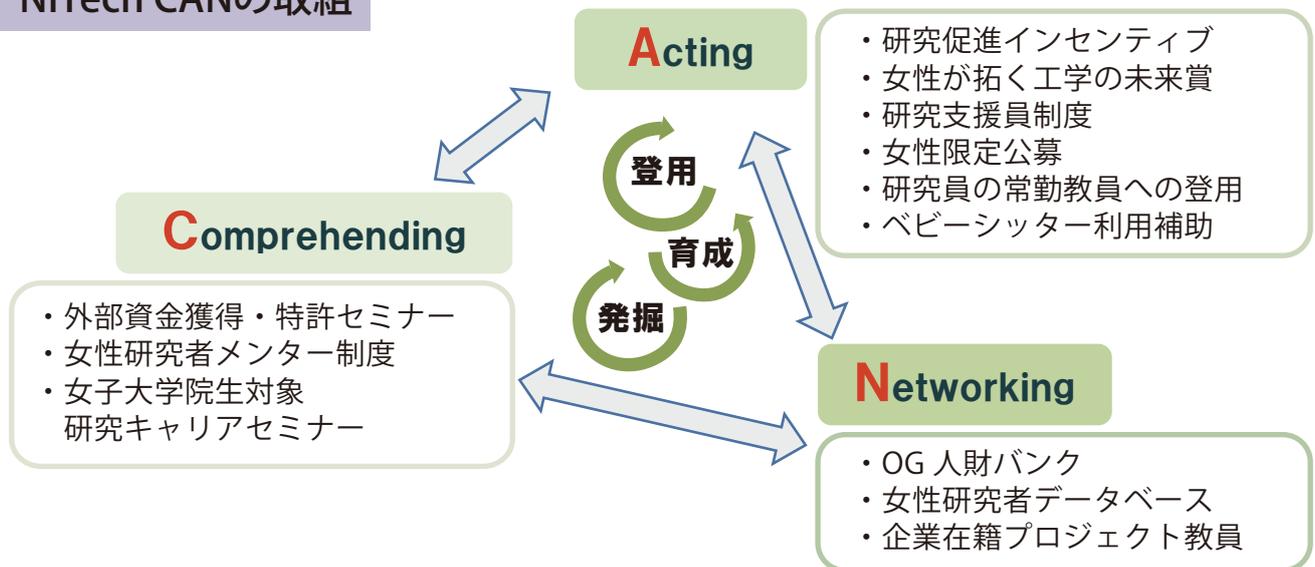


女性の可能性を広げる

産学が一体となり、学生から研究員、研究者、研究リーダーまでの全てのステージの女性工学人材に対して、育成と支援を行うことで、女性工学人材の流動性・機動性を高め、女性研究者の増加を目指します。企業には、さまざまなレベルで研究・開発に携わる女性が存在します。こうした高いポテンシャルを持った工学系の女性たちが本学の女性研究者と共同研究を行ったり、博士課程に社会人として入学し、学位を取得して業績を積むことで、従来のルートとは別の女性研究者育成の道を拓くことができます。

工学を志す女性にとって、研究キャリアへの多様な道を拓くことは、活躍の場や方法において多様な選択肢と可能性が広がることにつながります。多様な未来を思い描ける分野は、次世代を担う女子中高生にとっても、魅力的な進路になります。「C：知る・A：行動する・N：繋がり、広げる」の3つの指針を産学で共有し、ダイバーシティ研究環境を実現していきます。

(2) NITech CANの取組



「C：知る・A：行動する・N：繋がり、拡げる」の3つの指針は、各取組の категорияとして機能しています。

「C：知る」の取組として、研究力や女子学生の研究キャリアへの意欲を高めるためのセミナー開催、メンターが女性研究者の課題を把握してキャリアアップのための道筋を示し導く「女性研究者メンター制度」があります。

「A：行動する」では、女性限定公募などのポジティブ・アクションに加えて、研究助成金付与、優れた研究業績を挙げることが期待される本学の女性研究者を対象とする学長褒賞「女性が拓く工学の未来賞」による顕彰によって、女性研究者の研究力とプレゼンスの向上をバックアップしています。また、ライフイベント期の研究者に対しては性別を問わず、研究支援員の配置、ベビーシッター利用補助制度などでサポートを行います。

「N：繋がり、拡げる」では、OG人財バンクを通しての女性工学人材の発掘、女性研究者データベースの公開による産業界との共同研究の推進、企業在籍の女性研究者・技術者をプロジェクト教員として本学に招聘する取組により、産業界との連携を強化しています。

C・A・Nの好循環が生み出す成果

2019年度は「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」事業3年目を迎え、C・A・Nの取組の相互作用により、発掘、育成、登用の好サイクルが形成され、工学系女性人材の育成と上位職登用への道筋を示す具体的な成果が表れています。

育成面では、本学の女性研究者を代表者とする科学研究費補助金の採択率が、事業開始前の2016年度に30%（大学全体：30%）であったのに対し、2018年度は45%（大学全体：28%）に向上しました。また、女性研究者を代表者とする産業界との共同研究件数についても、2016年度に比べ2018年度は3倍に増加しており、事業開始後、女性研究者の大きな躍進がみられます。

登用の面では、事業開始後6件の女性限定公募による採用に加えて、非常勤研究員の上位職登用も実現しています。事業開始時にOG人財バンク発足の過程で発掘された非常勤女性研究員が、本プログラムによる研究助成と「女性が拓く工学の未来賞」優秀賞授与による顕彰を経て、2019年度に本学特任准教授に着任しました。この着任に伴い、他大学から招待講演の依頼を受けるなど、活躍の幅を広げています。

次世代育成

- step 1. **C**omprehending
 step 2. **A**cting
 step 3. **N**etworking

研究者支援

イノベーション創出の鍵となるダイバーシティ豊かな人材育成を目指し【次世代育成】と【研究者支援】を2つの重要ミッションとして掲げます。

地域産業界・同窓会との協働を通じ、これらを **C・A・N** の3つのステップで着実に遂行します。

C Comprehending 現状を知る

工学女子キャリア形成塾

研究キャリアへの誘導

全学に向けたダイバーシティ教育

正課科目にダイバーシティ教育を整備

女性研究リーダー養成塾

共同研究・競争的資金獲得支援

メンター制度の拡充

メンター研修の実施

A Acting 変革に向けて行動する

中高生の理系選択支援

企業・自治体との連携

スタートアップ研究費付与

大学院生への研究動機付け

特任研究員等の常勤教員登用

ポジティブアクション

研究促進インセンティブ付与

大型科研費、共同研究奨励

リスタート研究費の付与

キャリアを中断した研究者の復帰支援

ライフイベント支援の拡大

研究員等に支援範囲を拡大

N Networking 繋がり、拡げる

OG人材バンクの拡充

企業研究者、技術者、院生も参加

大学間連携会議の実施

所属、職位、世代を超えた情報交換会

女性研究者データベース公開

共同研究に向けた女性研究者情報の集約と公開

女性研究者・技術者の会活動

連携企業研究者・技術者とも連携

プロジェクト特任女性教員の増員

連携企業から招聘



女性が拓く工学の未来賞

優れた研究業績を挙げることが期待される学内の若手女性研究者を表彰することにより、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の発掘と育成を図っています。



女性研究者・技術者の会

女性が学内で分散・孤立した状況に陥りがちである状況を打破するため創設された女性研究者・技術者の会では、ランチミーティングを通じて交流を深めています。



女性同窓会・鶴桜会

2016年、全学同窓会「名古屋工業会」の支援により鶴桜会が設立されました。年次交流会では、学長を交えて、専門分野を越えた交流が進んでいます。



彩綾 ～SAYA～

女子学生団体「彩綾～SAYA～」は、学科・学年をこえて繋がり、名工大の女子らしく今も未来も輝ける場を作るため、2014年10月に設立されました。



ダイバーシティ教育

イノベーションにおけるダイバーシティの重要性を学ぶダイバーシティ・男女共同参画関連科目を正課科目として開講しています。



女性研究者データベース

工業大学ならではの研究シーズを持つ本学の女性研究者と産業界および地域社会の連携を促進するため、名工大の女性研究者の代表的な研究を公開しています。

(1) ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾

2019年9月3日～11月1日、ダイバーシティ推進センター主催「第5期ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」を開催しました。本養成塾は製造業に勤めている女性技術者のための講座で、受講を通じて、女性技術者が自身のキャリア形成を主体的に計画する意識を持つこと、品質管理や組織運営のスキルを体系的に学び、現場での問題解決に役立つ技能を習得することを目的としています。

今期は、県内外より企業20社から20名の女性技術者が受講しました。9月から10月にかけての3日間にわたってキャリアコンサルタントによるキャリアデザインのワークショップと品質管理・組織心理学の演習が実施された後、11月1日に卒塾式と特別講演会が行われました。卒塾式では壇上で塾長の藤岡学長特別補佐（ダイバーシティ推進担当）から修了証が授与され、一人一人がリーダーになるための行動宣言を述べました。

特別講演会では、株式会社光機械製作所代表取締役社長の西岡慶子氏を講師に迎え、「経営に活かす女性の力」をテーマに、能力・適正・やる気を重視した人材配置と女性や外国人の積極登用についてお話しいただきました。

卒塾式、特別講演会には、後援団体、参加企業から約65名が参加し、参加企業からは「女性リーダーだけでなく、すべてのリーダーにとって大切なものを学ぶことができた」という感想が多く寄せられました。



2019年度「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾 第5期」の実施内容

実施日	内 容
2019年9月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン講座1「自己分析①未来の自分をイメージする」 ・ロールモデルとの座談会 ・キャリアデザイン講座2「自己分析②私らしく働き続けるためには」
2019年9月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー養成講座 ①「品質」をテーマにもものづくりのマネジメントを考える ②「ボカミス」をテーマにもものづくりの安全を考える ③「コミュニケーション」をテーマにもものづくりの現場を考える
2019年10月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン講座3 「キャリアプラン～リーダーとしての今日からの行動計画～」
2019年11月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・報告会「リーダーとなるための行動宣言」と修了証書授与 ・特別講演会「経営に活かす女性の力」 ・情報交換会

日 時 : 2019年9月3日～11月1日（全4回）
 会 場 : 名古屋工業大学
 対象者 : 製造業に勤めている意欲的な女性技術者
 参加者 : 県内外企業20社から20名の女性



(2) 産業論

「産業論」は、工学部第一部2年次後期の必修科目です。産業と技術の関りを学びながら、技術者の責任と経営感覚の習得を目的とする科目で、全学科の第8回目の授業として「ダイバーシティセミナー」が置かれています。11月20日から12月6日にかけて、各学科でものづくり企業に勤務する実務型教員による講義が行われました。

生命応用化学科では、株式会社メニコン勤務の女性技術者で本学特任准教授である伊藤恵利氏、東亜合成株式会社でプラント設計を担当する女性技術者で本学特任准教授を務める勝尾智津氏を講師に迎えました。

伊藤氏は、自身のこれまでのキャリア形成の振り返りと、日米での知的財産についての考え方の差異に身をもって触れた経験をもとに、「異種文化の混入から新たな価値が創出される」をテーマにお話しされました。勝尾氏は、女性が少ない技術職の中で、女性技術者のキャリア形成を長期的に支えていくための企業の取組について解説されました。

情報工学科、物理工学科、電気・機械工学科、社会工学科では、経済産業省「新・ダイバーシティ企業経営100選」の一つにも選出された日本特殊陶業株式会社より、戦略人事部長の山口智弘氏、戦略人事部ダイバーシティ推進課長の平野なつき氏を講師にお迎えしました。

講義では、ダイバーシティとは何か、なぜ企業はダイバーシティを推進するのか、企業はどのようにダイバーシティを推進しているのかという三点にフォーカスし、受講生との意見交換も挟みながら、ダイバーシティ推進によるイノベーション創出について深く掘り下げました。講義の最後には、戦略人事部長の山口氏から、就職や進学など、学生が今後迎える人生の大きな岐路に向けて、大学2年生の今のうちに何を考え、行動しておくべきかというアドバイスが贈られました。

学生にとって、ダイバーシティの基礎的な知識を学ぶだけでなく、次世代のダイバーシティ推進の担い手として、自分ができることを深く考える機会になりました。



11月20日 生命・応用化学科、創造工学教育課程（生命・応用関係分野）

講師：株式会社メニコン 伊藤恵利氏、東亜合成株式会社 勝尾智津氏

11月20日 情報工学科、創造工学教育課程（情報関係分野）

11月21日 物理工学科、創造工学教育課程（物理工学関係分野）

11月25日 社会工学科、創造工学教育課程（社会工学関係分野）

12月 6日 電気・機械工学科、創造工学教育課程（電気・機械関係分野）

講師：日本特殊陶業株式会社 戦略人事部 部長 山口智弘氏、
戦略人事部ダイバーシティ推進課 課長 平野なつき氏

II. 2019年度事業実施報告

1 意識啓発

- (1) トップセミナー
- (2) ダイバーシティ推進シンポジウムの開催
- (3) 第3回FD研究会
「LGBTQ学生が安心して学べる環境づくりのために」を開催

2 研究者支援

- (1) 研究支援員制度
- (2) 女性研究者メンター制度・メンター研修
- (3) 女性が拓く工学の未来賞
- (4) 女性研究者研究促進制度
- (5) NITech CAN「女性研究リーダー養成塾」
- (6) 女性研究者・技術者の会 ランチミーティング
- (7) NITech CAN キッズプログラム
- (8) ライフイベント支援

3 次世代育成

- (1) NITech CAN「工学女子キャリア形成塾」
- (2) 全学に向けたダイバーシティ教育
- (3) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」
- (4) 女子学生団体「彩綾～SAYA～」
- (5) 女子学生向けオープンキャンパスとテクノフェスタ
- (6) 小牧市「キッズラボわくわく大作戦」
～彩綾といっしょに理系分野を体験しよう～を開催
- (7) 大府市男女共同参画学習会を開催

4 情報発信

- (1) 育児と介護のためのハンドブック
- (2) ダイバーシティ研究環境を目指して
—多様な性を理解するためのLGBT+ハンドブック—
- (3) ニュースレター
- (4) ダイバーシティ推進センターウェブサイトリニューアル

1 意識啓発

(1) トップセミナー

〈ダイバーシティが工学の未来を拓く〉

トップセミナー「ダイバーシティが工学の未来を拓く」を開催しました。電気通信大学副学長（研究担当）兼男女共同参画・ダイバーシティ戦略室長の由良憲二氏を講師に迎え、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業において進められている取組と成果についてお話を伺いました。

講演では、ライフイベント期の女性研究者の研究力向上と意識啓発を図る取組として、子ども同伴で出席可能な3機関共同の研究会やキャリアデザインワークショップの開催、大学内保育所、研究支援員の配置によるサポートが紹介されました。また、併せて実施されている工学分野を専攻する女子学生の裾野拡大のための取組「匠ガールプロジェクト」の内容についても詳しくお話しいただきました。

講演後は、連携機関との共同研究契約の課題や解決策について質問があり、活発な意見交換が行われました。



日時：2019年5月15日
会場：名古屋工業大学 4号館 第3会議室
対象：学長ら役員、全部局長、管理監督教職員
参加者：40名

(2) ダイバーシティ推進シンポジウム

〈科学技術とダイバーシティの新しい関係〉

名古屋工業大学ダイバーシティ推進シンポジウム「STEM分野のダイバーシティ推進が拓く未来」を開催しました。シンポジウム前半では、文部科学省人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」における本学の事業中間報告を行った後、由良憲二電気通信大学副学長より、外部評価委員会による事業評価結果が報告されました。

後半は、二人の講師による講演会を行いました。最初に、科学技術振興機構（JST）プログラム主管の山村康子氏が「ダイバーシティ・マネジメントへ」と題して、米国の女性研究者支援の歴史と、日本企業、各省庁のダイバーシティ施策についてお話しされました。次に、日本アイ・ビー・エム株式会社執行役員我妻三佳氏が登壇し、「誰もが活躍できる社会のために— STEM分野のダイバーシティ推進—」として、人材が多様化する中で障害となりうる「無意識の偏見」について、自身の経験談も交えながらご講演されました。

教職員70名が参加し、本学ダイバーシティ推進のあり方を見直す有意義な機会となりました。



日時：2019年9月25日
会場：名古屋工業大学 4号館 1階ホール
対象：教職員・学生・一般
参加者：70名

(3) 第3回FD研究会

〈LGBTQ学生が安心して学べる環境づくりのために〉

本学工学教育総合センターとダイバーシティ推進センターが主催し、第3回FD研究会を開催しました。講師に、NPO法人「PROUD LIFE」理事であり、南山高等学校・中学校 保健体育科教諭の中谷豊実氏をお迎えして「LGBTQ学生が安心して学べる環境づくりのために～性の多様性の理解～」と題してご講演いただきました。

講演では、性自認・性的指向はグラデーションであるということの基礎的な説明と当事者学生が大学で安心して過ごすために教員が最初に取り組むべきことをお話いただきました。

本学教職員と関心をお持ちの一般の皆様、合計32名にご参加いただきました。参加者からは、「自分の認識が間違っていたことに気づけた」、「現場の生の声を聞くことができ、大変貴重な時間だった」という感想が寄せられました。性は多様であることを理解し、皆が豊かな気持ちで過ごし、学ぶことのできる環境づくりについて考える機会となりました。



日時：2019年11月27日
 会場：名古屋工業大学 11号館2階 1121室
 対象：教職員・学生・一般
 参加者：32名

「ダイバーシティ研究環境を目指して—多様な性を理解するためのLGBT+ハンドブック—」

社会全体で多様な性への理解が進む中、すべての学生が安心して学び、教職員も含めて誰もが伸び伸びと本来の能力を発揮できる教育研究環境を整えることを目指し、2020年3月に「ダイバーシティ研究環境を目指して—多様な性を理解するためのLGBT+ハンドブック—」を刊行しました。

LGBT+の定義、大学生活、教育、就職活動の場で当事者が遭遇する課題、カミングアウトへの対応方法についてのガイド、本学在籍の当事者学生のインタビューを掲載しています。



(1) 研究支援員制度

本制度は、男女を問わず出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由のために十分な研究時間が確保できない教員等に研究支援員を配置することで生活と研究業務の両立を図れるように支援していくものです。

研究支援員の身分はパートタイマーとし、研究支援員として雇用できるのは本学の大学院に在籍する学生、本学の卒業生です。「学生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり19時間以内、「卒業生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり30時間以内です。

利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす本学の教員及び研究員

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む。）を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要介護者または要支援者がいる者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者

(2) 女性研究者メンター制度・メンター研修

講師に日本アイ・ビー・エム株式会社執行役員の我妻三佳氏（名古屋工業大学特任教授）をお迎えし、「より効果的なメンタリングのために」と題して、日本アイ・ビー・エム株式会社におけるメンター制度について詳しくお話しいただきました。

日本アイ・ビー・エム株式会社では、メンタリングをメンティの自発的、自立的な成長を促す活動と位置付け、メンティは所属組織の利害関係に影響されない関係性のもとで、メンターからアドバイスを受けられる活動が目指されています。

人材や職種の多様化が進む中で、職種が異なる組み合わせのメンタリング活動を行うことにより、メンター・メンティともに自分の経験とは異なる分野の実践や課題を知り、人脈を広げる効果があることが実感される一方で、メンターとメンティのマッチングについては慎重な考慮が必要で、関係性の構築に時間がかかることが指摘されました。

研修は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から縮小して開催され、ダイバーシティ推進センター教員のみのお席となりましたが、講義後には、実際のメンタリング活動の詳細や、メンター側の動機付け、メンタリング活動の統括部署についてなど、多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。



日時：2020年2月28日
会場：名古屋工業大学 11号館3階 交流サロンi-cafe
対象：本学の教員
参加者：3名

(3) 女性が拓く工学の未来賞

ダイバーシティ推進中間報告シンポジウムの冒頭で、2019年度「女性が拓く工学の未来賞」授賞式が行われました。この賞は若手女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り、これによりダイバーシティの推進に資することを目的するものです。

本年度は、優秀賞を宮川鈴衣奈助教（物理工学専攻）、奨励賞を細島頌子研究員（生物・応用化学専攻）が受賞し、表彰状とトロフィー、副賞が授与されました。



女性が拓く工学の未来賞 受賞者の声



宮川鈴衣奈 助教
物理工学科
応用物理分野

光栄な賞をいただきまして、誠にありがとうございます。

本学に着任して8年目になりますが、恵まれた環境で研究、教育に取り組めていることに感謝しております。これまでに女性研究者・教員など、女性だからいただいた機会もあり、多くの経験をさせていただいていると感じております。同時に、私自身は工学分野の選択にあたり女性であることを意識したことはありませんでしたので、戸惑いもあり、また女性という立場に頼り過ぎないようにもがいてきたところもございました。同じ女性研究者でも、分野や年代により感じていることや置かれる立場も様々であります。環境や時代の流れに左右されないような研究力と人間力を身に付け、未来の自分にワクワクできるような研究人生を送っていきたくと思っています。



細島頌子 研究員
生命・応用化学科
生命・物質化学分野

このような名誉ある賞をいただくことができ、大変光栄に思います。この度の受賞も、学会での研究成果の発表も、自身の日々の研鑽はもちろんですが、共に研究に取り組むラボのメンバー、そして名古屋工業大学の皆様のサポートあってのことであり、感謝の念に堪えません。また同時に日々の努力が実を結び、未来賞の受賞に繋がったことは、自身を含め、研究グループ一同、非常に心を躍らせております。さて我々のグループは光に応答するタンパク質の研究を行っており、学術的な真理の探究は言うまでもなく、光を用いた生命現象の操作技術を医療や産業へと応用する道も模索しております。この光操作技術が、明るい未来の発展に貢献できますよう、より一層精進していく所存です。

(4) 女性研究者研究促進制度

女性研究者が、受託研究や民間企業との共同研究等につながる外部資金獲得の研究提案を行い、実現に至る例は全国的に未だ少数にとどまっています。本学では、この現状を変えるために、意欲ある女性研究者を対象に研究促進のためのインセンティブを付与して研究を支援する「女性研究者研究促進制度」を2017年度に発足しました。

学内の女性研究者研究促進制度選考委員会の審査により、2019年度は9名の応募者から8名の女性研究者が採択され、研究費が支給されました。

対象

- ・准教授、助教にあつては、2020年度の学内研究推進経費（戦略的研究、将来を見据えた研究、若手研究）の申請、もしくは、2020年度内の外部資金申請（導入）を前提とした申請であることを条件とする。
- ・将来の外部資金獲得、研究力の向上等に寄与する研究シーズを持っている、准教授、助教、特任教員、特任研究員、研究員等とする。

採択者の声

「乳幼児施設における冬季の室内環境調整とインフルエンザ対策」

社会工学専攻 建築・デザイン分野 准教授 須藤美音

本制度の利用により、これまで未調査であった北九州地域の乳幼児施設10施設の室内環境の測定データ（温度、湿度、CO2濃度）追加調査を行うことが可能になりました。これにより日本国内の複数地域におけるデータを取得し、インフルエンザ予防・抑制のための、より信頼性の高い室内環境マニュアル（湿度調整、換気手法）の構築が可能になりました。

「食を通じた共生行為と地域コミュニティの持続的発展に関する社会学的研究」

創造工学教育推進センター 准教授 牧野友紀

本制度活用により、イギリス、EU（オランダ・アムステルダム）と日本の地域コミュニティを調査対象地域としたフィールドスタディを計画、地域コミュニティの予備的調査を行い、国際比較に基づく実証研究を行う見込みを立てることができました。

さらに、現在の研究に接続・発展させるテーマを「食を手がかりとした生活共生のあり方と地域再生」と決定しました。それに見合う対象地域として、福井県鯖江市、岩手県浄法寺町を選定し、福井県では予備調査を行い、岩手県では共同調査の実施見込みを立てることができました。これにより、今後の調査研究体制の確立ができました。今後は、本制度活用によって得た研究成果を2020年夏・秋開催の学会で報告するとともに、民間助成金、科学研究費補助金等の申請を計画しています。

「スマートSCと脱炭素化実現のための生産ネットワークの最適施策モデル」

社会工学専攻 経営システム分野 准教授 孫品

本制度の支援により、代表者として行った科研費基盤研究C（2016-2018年）の研究成果を踏まえて、生産システムの全体最適化と脱炭素化の両立を目指した生産ネットワークの最適な切替モデルの提案を行い、試行したシミュレーション結果を国内学会に発表しました。また、本助成課題に関連する研究成果として、APIEMS2019やCIE46の国際会議及び日本経営工学会の研究大会における多数の研究発表の他、経営工学のトップレベルの国際論文誌IJPEに論文掲載もでき、本助成で得た研究成果は今後の新しい外部資金獲得のための基盤になりました。

「避難計画のための対話支援Webアプリケーションの開発」

社会工学専攻 環境都市分野 助教 中居楓子

本制度の支援により、防災を支援するWebアプリケーションに関連する文献調査と、津波からの避難行動を調査するツールの現地での実証実験を行いました。文献調査では、本研究のツールの特色と位置づけを明確にすることができました。また、避難行動調査のためのツールの開発においては、必要な情報を入力し、各自が予定する避難経路を地図上に指でなぞって示してもらい、その情報をもとに避難所要時間を表示する機能を備えたアプリケーションが現時点で完成しています。このツールによって得られるデータを活用する計画を盛り込み、次期科研費、学内研究推進経費の申請を行いたいと考えています。

「光感受性陽イオンチャンネルの物性解析と生体応用」

生命・応用化学専攻 神取研究室研究員 細島頌子

イオンが細胞膜を通過することで生じる電流値は微小であり、実験にはパッチクランプ増幅器やデータ取得装置、そして、これらを制御し、データを記録・解析するためのコンピュータが必須です。今年度は、女性研究者研究促進制度を利用し、コンピュータを導入することで、研究を進めることができました。すでに1報の論文を報告し、1報の論文を投稿中、さらに1報の論文を執筆中と、成果発表にも繋がりました。これらの成果を今後の研究費の獲得等に繋げていきたいと考えています。

「ベイズ最適化を利用した新規蓄電池材料の探索」

しくみ領域 特任准教授 武田はやみ

本制度を利用して、新規蓄イオン電池材料の効率的な探索に有効な機会学習に関する知識習得に努めると同時に、国際学会に参加して、蓄イオン電池材料に関する最新情報を収集しました。ここで得られた情報を活用し、実験的方法と計算的手法を連携して新規蓄イオン電池材料の探索研究を行った結果、イオン導電性を向上させる方法を見だし、複雑組成材料の探索を効率的に行える一例を示すことが出来ました。さらに、これらの成果は、新規Mgイオン伝導体を発見することなどにもつながりました。

本制度により得られた成果を基に、研究を発展させるため、科学研究費助成事業への応募を行いました。

(5) NITech CAN「女性研究リーダー養成塾」

第1回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」

女性研究リーダーの育成を目的とした研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」を開催しました。産学官金連携機構URA沖原理沙氏より、自分が思い描いた研究計画に戦略的に外部資金を組み入れる方法と、このプロセスにおける産学官金連携機構の支援についてお話しいただきました。

科学技術コーディネーターの佐藤紀夫特任教授からは、外部資金の基本知識と申請書の書き方について、科学研究費補助金の申請書を例とし、アピールポイントの見せ方や研究のコンセプトの明確な伝え方についての注意点を示されました。参加者から「普段研究をしている中では、気づけない視点を得られた」などの感想が寄せられました。



日時：2019年8月7日
会場：名古屋工業大学 11号館3階 交流サロンi-cafe
対象：教員・研究員・博士後期課程の大学院生
参加者：8名

第2回研究力向上セミナー「研究者のための特許講座」

2回目の研究力向上セミナーでは、特許出願の入門講座「研究者のための特許講座」を実施しました。

初めに、コスモス国際特許商標事務所の弁理士 富澤正氏より、「特許出願の意味を知ろう」と題して、知的財産についての基礎的な考え方、特許公報の読み方、特許権を認める基準について詳しく解説していただきました。

続いて、ダイバーシティ推進センター長 呉松竹教授に、ご自身の特許出願経験にもとづいて、研究成果を特許にするために必要な視点について実例を挙げてお話しいただきました。

最後に、産学官金連携機構 コーディネータ 佐藤久美氏より、特許申請をする際の学内手続きと相談窓口の紹介がありました。

学部生を中心に教員等19名が参加し、「特許の基本がわかって良かった」「実際に研究者がどのように特許申請するのか様子がわかって良かった」などの感想が寄せられました。



日時：2020年2月20日
会場：名古屋工業大学 11号館2階 1121室
対象：研究員・教員・大学院生
参加者：19名

(6) 女性研究者・技術者の会 ランチミーティング

「女性研究者・技術者の会」は、所属部局において圧倒的少数であり、孤立した状態にある女性研究者のネットワーク形成を目的として2015年度に発足しました。回を重ねる中で単なる交流を越え、キャリアアップを望む女性研究者の不安やニーズを的確に把握できる場へと成長しました。学長、理事、専攻長等をゲストに迎え、女性研究者・技術者が自身の研究紹介等の話題提供をしています。通常は直に接することがほとんどない若手女性研究者と大学上層部との懇談の機会を設けた結果、女性研究者の研究意欲とプレゼンスの向上にもつながる多機能で効果的な場になりました。



実施概要

実施概要	話題提供	参加数
【第1回】 6月21日(金)	交流を深め、情報交換を行う気軽な昼食会	12名
【第2回】 9月 2日(月)	交流を深め、情報交換を行う気軽な昼食会	8名
【第3回】 11月19日(火)	生命・応用化学専攻 神取研究室 細島頌子研究員	16名
【第4回】 1月14日(火)	社会工学科 経営システム分野 孫晶准教授	11名
【第5回】 3月 5日(木)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	

会 場：名古屋工業大学
11号館3階
交流サロンi-cafe
※1月14日のみ2号館ラウンジ
開催時間：12:05－12:55

(7) NITech CAN キッズプログラム

夏季学童保育イベント

7月30日と8月6日の2日間、NITech CAN キッズプログラムを開催し、小学生のべ38名が参加しました。7月30日の午前中は、名古屋で活動する建築系学生団体「758でまえワークショップパース」の協力を得て、ドームと町づくりに挑戦しました。午後は情報工学専攻 打矢隆弘准教授、大塚孝信准教授の協力を得て「プログラミング教室：めいろであそぼう!」を行いました。世界初の迷路作成キット「A MAZEING!! MAKER」を使い、子どもたちはスイッチブロックや電子基板を組み込み、各々の考えた独自の迷路を組み立てていました。

8月6日は英語リトミックから始まり、歌に合わせてダンス、動物のものまね、ボールを使ったゲームなど、全身を使って元気いっぱい楽しみました。午後の工作ワークショップでは、画用紙で家や建物を立体的に作り、窓や模様を描き折り紙の飾りをつけた各々の作品を組み合わせ町を作りました。夕方には、半田空の科学館ふくろうの会の先生を講師にお迎えし、「星のおはなし会」を行い、子どもたちは星座にまつわるギリシャ神話を静かに聴き入っていました。

参加した子どもたちからは「楽しかった」「毎日来たい!」という声が、保護者からは「学ぶ楽しさにあふれたプログラムで、充実した日を過ごさせながら仕事をすることができました。」「子どもに親が働いている職場の雰囲気や少しでも感じてもらえる良い機会になりました。」という感想が寄せられました。

日 時： 2019年7月30日、8月6日
会 場： 名古屋工業大学 大学会館3階 集会室3・集会室4
対 象： 本学教職員の小学生のお子様
参加者： のべ38名



(8) ライフイベント支援

1. ベビーシッター利用の補助制度

本学は、2015年度に「名古屋工業大学ベビーシッター育児支援実施要項」を制定し、本学教職員及び学生の育児と仕事、研究の両立のために四種類の支援をしています。

① 内閣府のベビーシッター派遣事業の割引券利用

子ども・子育て支援法（2012年法律第65号）第59条の2第1項に基づき、公益社団法人全国保育サービス協会が発行する「ベビーシッター派遣事業」の割引券を利用するものです。

割引の内容：サービス利用時に割引券を提示することで、一日（回）あたり2,200円の割引が受けられます。

※利用料金が2,200円以下の場合には利用できません。

利用可能枚数：一日（回）につき家庭1枚まで（一か月24枚、一年280枚まで）

利用対象者：本学に勤務する教職員（パートタイマーの方は、厚生年金の被保険者に限ります）

利用対象となる子供

- ・乳幼児又は小学校3年生までの児童
- ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童

利用の条件

- ・利用対象者がベビーシッターサービスを利用しないと就労継続することが困難な場合
- ・利用者の家庭内における保育や世話並びに家庭と保育所との送迎である場合
- ・公益社団法人全国保育サービス協会が認定しているベビーシッター事業者の利用に限る

② 大学契約ベビーシッターサービス「千種シッターサービス」

本学独自の契約により本学の教職員及び学生は、会員料金で大学近隣の保育施設「千種シッターサービス」を利用できます。また、本学に勤務する教職員（パートタイマーの方は厚生年金の被保険者）への利用料の補助等も行っています。

利用対象者：本学の教職員及び学生

割引の内容：会員料金でベビーシッターサービスを利用できます。

なお、本学に勤務する教職員（厚生年金の被保険者である非常勤職員を含む）は、申請により一家庭につき一日（回）あたり700円の補助が受けられます。

利用対象となる子供

- ・乳幼児又は小学校3年生までの児童
- ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童

利用可能サービス

- ・シッタールーム利用
- ・シッター派遣（※ベビーシッター派遣事業割引券を利用することはできません）

③ 病児・病後児保育支援制度

本学教職員が養育する児童が病気にかかり、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合に、一時的にベビーシッターサービスによる病児・病後児保育を受け、業務の遂行を可能とする支援制度です。

割引の内容：登録料の全額及び利用料金の半額を大学が負担します。

<利用料金>	7:00 ~ 9:00	2,150円/時間
	9:00 ~ 18:00	1,950円/時間
	18:00 ~ 19:00	2,150円/時間

※前営業日の18:00以降の連絡は1,000円/時間の加算、市内通勤費加算850円/回等があります。

※最低利用時間は、2時間です。

利用対象者：本学教職員

利用対象となる子供：本学教職員が養育する小学校3年生までの児童

サービスの内容

- ①病児保育：病気にかかっているが、感染性の強い病気ではなく当面の症状の急変が認められない場合においての一時的な保育
- ②病後児保育：病気の回復期であるが、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合等においての一時的な保育

④ 学会託児サービス利用補助制度

本学教職員・研究員（非常勤含む）が学会大会及び付随する会議に出席するために、その会場等で学会により提供される託児サービスを利用する場合に、託児サービス利用料金の補助をする支援制度です。

支援の内容：学会により提供される託児サービス利用料金の補助が受けられます。

利用上限：補助額は1申請者につき年間1万円を上限とする

利用対象者：本学に勤務する教員・研究員

利用対象となる子供：本学教職員・研究員が養育する小学校6年生までの児童

利用の条件

- ・学会大会及び付随する会議に出席するために、学会により提供される託児サービスを利用する場合
- ・開催日数、出席日数に関わらず、学会あるいは会議への出席1回ごとに1申請とする
- ・1日につき4時間を超える託児サービス利用を補助対象とする

2. 保育室・一時保育サービス

ダイバーシティ推進センター交流サロンi-cafeには小規模の保育室があり、育児休業中の職員のセミナー出席や休日出勤する教職員のために一時保育サービスを行っています。

2019年度は、鶴桜会交流会、センター試験、健康診断、婦人科検診時に利用がありました。本学で開催される学会やセミナーの際にもご活用いただけます。

(1) NITech CAN「工学女子キャリア形成塾」

第1回 英語論文セミナー

発生物理学を専門とするデイ・ティモシー先生を講師にお迎えし、英語論文において研究成果をよりわかりやすく表現するための方法についてお話しいただきました。本学の研究者が冒しやすい文法エラーを踏まえての講義となり、受講者は、時制の考え方、冠詞の使い方などについて、研究方法や成果を示す際の具体的な注意点を学ぶことができました。

学生と教員、合計12名が受講し、「ずっと迷っていた時制、冠詞について詳しく学べてよかった」「論文を書くときにすぐに役立つ知識を得られた」と受講者の現状を把握した講義内容が好評を博しました。



日時：2019年8月9日
会場：名古屋工業大学 11号館3階 交流サロンi-cafe
対象：教員・研究員・博士後期課程の大学院生
参加者：12名

第2回 英語プレゼンテーションセミナー

2020年2月から3月、講師にLeafy Learn 代表ヤング・タム先生を迎えて4回にわたって英語プレゼンテーションセミナーを実施しました。第1回、第2回では10分間のプレゼンテーション原稿を完成させることを目標に、テーマ選定、イントロダクションと本論の構成方法を学び、主題が明確で論理的な構成のプレゼンテーション原稿を完成させました。

第3回では、話すスピードや声の大きさ、目線、聴衆に呼びかけた際の間など、プレゼンターのふるまい方と、スライドを作成する際の注意点を学びました。最終回の第4回では、プレゼンテーション中に自分自身が聴衆からどのように見えるのかを互いに確認し、改善点について話し合いました。

小規模のプレゼンテーションをゼロから作成して実際に行い、細かな部分まで丁寧に振り返りを行うことで、受講者は自分のプレゼンテーションを点検するための指標を身に付け、自信を持って登壇できるようになりました。



日時：2020年2月5日、2月12日、2月19日、3月24日
会場：名古屋工業大学 11号館3階 交流サロンi-cafe
対象：教員・研究員・博士後期課程の大学院生
参加者：6名

(2) 全学に向けたダイバーシティ教育

本学では、ダイバーシティ推進、男女共同参画をテーマとする授業を正課科目として開講しています。ダイバーシティ推進センター教員が担当し、次世代を担う技術者として弁えるべきジェンダー平等の意識や多様な文化への配慮について、実例をもとに深く考察する機会を設けています。

■男女共同参画社会論（共通科目2年次後期・3年次前期）

「男女共同参画社会論」では、現代社会における性別をめぐる諸問題について理解し、なぜ男女共同参画が必要なのか、どうしたら男女共同参画社会を実現できるのかを考察します。ジェンダー論の基礎、家族関係、教育システム、労働環境、社会政策における諸問題を国際比較も含めて学び、性別にかかわらず個人の人権が尊重される社会の在り方を考察しています。2019年度は、授業の終盤に株式会社東亜合成プラント事業部勝尾智津氏、株式会社デンソーO Bの鈴木康利氏を講師に迎え、企業における男女共同参画の課題、対応策、女性技術者のキャリア形成についての現場の生の声を聞く機会を設けました。



■ダイバーシティ・マネジメント（社会工学科経営システム分野3年次前期）

「ダイバーシティ・マネジメント」は、毎回テーマを提示して学生にディスカッションやプレゼンテーションを課すアクティブラーニングの形式で行っています。2019年度は「対立から協調へ」を講義のメインテーマとして、下記7つの小テーマについて講義、グループワーク、ディスカッションを行い、理解を深めました。2019年度は、ジェンダー・ダイバーシティ、エイジ・ダイバーシティの講師として株式会社デンソーO Bの鈴木康利氏を迎え、女性活躍と若手社員の成長についてグループディスカッションを行いました。小テーマでの学びを深めた後、最終回には、「対立から協調へ」をテーマに全員が個人発表を行いました。



2019年度ダイバーシティ・マネジメント「対立から協調へ」授業内容

1. 心理的安全性
2. 無意識のバイアス
3. インクルーシブな環境実現のためのルール作り
4. キャリア形成と多様性理解
5. ジェンダー・ダイバーシティ
6. エイジ・ダイバーシティ
7. 敵とのコラボレーションー対立する相手といかにして協調するかー

(3) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」

1. 女性同窓会「鶴桜会」

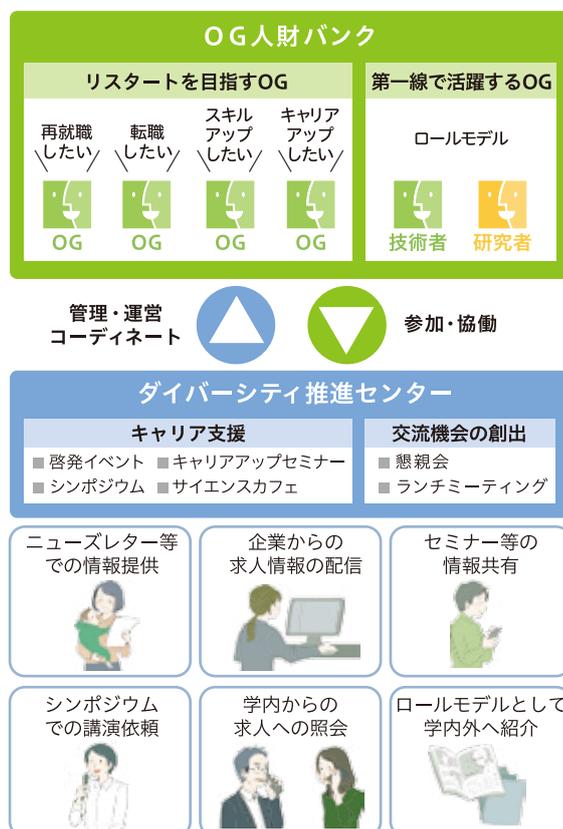
鶴桜会は、「年に一回会いましょう」を合い言葉に、女性卒業生や現役女子学生が交流でき、縦と横の繋がりを持てる場として2016年に設立した女性同窓会です。

2019年10月26日、第4回年次交流会を開催しました。本学ホームカミングデーと同日に昼食交流会を開催し、OGや現役女子学生のほか、学長、名古屋工業会理事長はじめ関係者38名が参加しました。華やかな雰囲気での歓談の後、武田はやみ特任准教授によるミニ講演会、小グループに分かれての座談会等が行われ、参加者同士が世代を超えて親睦を深めました。これからも世代や専門分野を超えて「名工大で学んだ女性」という新しい繋がりによる交流コミュニティとして輪を拡げていきます。



2. 「OG人財バンク」

2014年に発足した「OG人財バンク」は、ライフイベント等で社会の第一線から退いた本学OGを研究支援員として起用することで、専門性を活かした高度な支援を女性研究者に提供すると同時に、支援員となる本学OGにも再チャレンジのきっかけを提供するという、双方にメリットのある仕組みとして考案されました。現在では、社会の第一線で活躍する女性卒業生も含めた全ての本学OGを登録対象とし、学内外からのさまざまな要望に応えられる工学系女性人財の情報バンクに成長しています。例えば、ご登録情報に基づいて、実務型教員として母校の教壇に立っていただく、あるいはロールモデルとして学内外のイベントにご協力いただくなど様々な活用実績があります。今後は、全てのOGの皆様それぞれにメリットが感じられるような女性技術者・研究者の人財情報共有コミュニティとして成長させていきたいと考えています。



(4) 女子学生団体「彩綾～SAYA～」

女子学生の少ない本学で、学科・学年を超えた女子同士のつながりを持つことや、女子のキャリアをサポートすることを主な目的として活動する女子学生団体です。理系女子のキャリアを考えるイベントと並行して、SAYA内でのメンバー同士の交流を深められる楽しい企画も行っています。



2019年度メンバー：合計 49人

【学年別】 M2：1人 M1：0人
B4：10人 B3：14人 B2：22人 B1：2人

【学科別】

生命・応用化学専攻・学科：16人 電気・機械工学専攻・学科：15人
物理工学専攻・学科：2人 情報工学専攻・学科：4人
社会工学専攻・学科：10人 創造工学教育課程：2人

【主な活動内容】

- ・BOSCH×彩綾 座談会
- ・夏合宿 村田製作所企業訪問
- ・徒労会×彩綾 みんなでお菓子をたろう会
～キャリア女子のためのハロウィンパーティー～
- ・小牧市イベント キッズラボ～わくわく大作戦～
- ・ノリタケ×彩綾 工場見学&理系女子お茶会
- ・榎屋×彩綾 知立拠点見学会ツアー
- ・リケジョスイーツトーク
- ・就活報告会
- ・女性技術者交流会
- ・アイシン精機バスツアー
- ・SAYA 利きチョコ大会
- ・彩綾 OG 会
- ・新入生歓迎会



(5) 女子学生向けオープンキャンパスとテクノフェスタ

2019年6月8日、11月9日に開催されたオープンキャンパスにて、女子学生団体彩綾～SAYA～の協力のもと、女子学生向け相談コーナーを設けました。両日ともに、相談コーナーには多くの方が立ち寄り、受験に向けての勉強方法、学科、女子が少ない環境での学生生活、就職などについて、多くの質問が寄せられました。彩綾のメンバーがそれぞれの質問に親身になって対応し、自身の経験談を伝えて回答していました。参加者から、とても参考になったと大変好評でした。

11月9日は15時から大学会館2階に場所を変え、女子学生のためのテクノフェスタ、懇談会を行いました。懇談会には彩綾のメンバーだけでなく生協学生委員も加わり、53名の高校生が6テーブルに分かれ本学女子学生と交流しました。リラックスした雰囲気の中、高校生は本学女子学生の話に熱心に聞き、受験、学科、学生生活について多くの質問をしていました。



実施概要

	参加数	会場
【第1回】 6月 8日(土) オープンキャンパス	15組(高校生19名、保護者2名)	4号館ホワイエ
【第2回】 8月 6日(火) 台風接近のため中止	—	—
【第3回】 11月 9日(土) オープンキャンパス 女子学生のためのテクノフェスタ、懇談会	13組(高校生9名、保護者12名) 53名	4号館ホワイエ 大学会館2階

(6) 小牧市「キッズラボ～わくわく大作戦～」 〈彩綾といっしょに理系分野を体験しよう〉

小牧市の第17回「男女共同参画フォーラムinこまき」において、本学女子学生団体「彩綾～SAYA～」による工作と科学実験のイベント「キッズラボわくわく大作戦」を開催しました。「キッズラボわくわく大作戦」では、工作編として「ホログラム万華鏡」、科学実験編として「人工イクラ」を作りました。彩綾のメンバーから万華鏡と人工イクラの仕組みを紙芝居でお話した後、実際の工作と実験が始まりました。小学校低学年の参加が多く、子どもたちは目を輝かせながら楽しんで取り組んでいました。

日時：2019年11月10日
会場：小牧市まなび創造館 センターモール
対象：小学生
参加者：計40名（定員各20）



(7) 大府市男女共同参画学習会

2019年12月13日、「おおぶ男女共同参画ネットワーク」の会員様のうち、主に女子中高生保護者の方を中心に総勢32名が来学し、大府市男女共同参画学習会を行いました。初めに、正門のメイとタクミを紹介し、ウェルカム画像をご覧くださいながら機能の説明をしました。その後、学生食堂、生協、女子談話室を見学した後、大学会館にて講話を行いました。本学の大学案内映像をご覧くださいした後、ダイバーシティ推進センター加野特任准教授から、当センターの女子学生、女性研究者支援の取組と、女子学生在学比率の推移などのお話がありました。

次に、本学女子大学院生である井上真奈さんが、理系選択を決意した高校時代から、受験、学部、大学院までの学生生活について、さらに、就職活動の中で感じた工学部の女子学生としての強みと本学の魅力をお話しました。

最後に、武藤准教授より、自治体や国において男女共同参画が進められる背景と現状をご説明いただくと共に、先生ご自身が、どのような経緯で工学研究者の道を選び、歩いて来られたのか、その中での苦労などを交えながらお話いただき、女子中高生の保護者に向けて、女性が工学研究を選択する意義と利点をアピールして、講話を締めくくられました。

参加者からは、大学の雰囲気を感じとれた事、講話の内容に満足したという感想が寄せられました。特に、現役の大学院生から学生生活や進路選択における考え方を直に聞いたこと、武藤先生の最先端の研究の一端や、多方面での活躍のお話が印象に残ったようです。

日時：2019年12月13日
会場：名古屋工業大学
対象：おおぶ男女共同参画ネットワークの会員様
参加者：32名



(1) 育児と介護のためのハンドブック

「育児と介護のためのハンドブック」を内容を充実させて発行しました。育児・介護と仕事を両立していくための制度、サポートについて内容と照会先を日本語と英語で詳しく説明するとともに、日本語ページでは育児休業を経験した男性職員のインタビューも掲載しました。職種別に利用できる制度を一覧できる表も掲載し、より多くの教職員の皆様に活用していただけるように改訂しました。



(2) ダイバーシティ研究環境を目指して—多様な性を理解するためのLGBT+ハンドブック—

すべての学生が安心して学び、教職員も含めて誰もが伸び伸びと本来の能力を発揮できる教育研究環境を整えることを目指し、2020年3月に「ダイバーシティ研究環境を目指して—多様な性を理解するためのLGBT+ハンドブック」を刊行しました。



(3) ニュースレター

ダイバーシティ推進センターの取組の詳細を紹介するニュースレターを2019年7月、12月、2020年3月に発行しました。



(4) ダイバーシティ推進センターウェブサイトリニューアル

ダイバーシティ推進センターのウェブサイトを2019年12月にリニューアルしました。アクセシビリティを高めるとともに、鶴桜会、OG人材バンク会員や「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」の受講生等、対象を限定して情報発信ができる機能を搭載し、内容の充実を図りました。ぜひご覧ください。(スマートフォン対応済み)



名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター
<https://diversity.web.nitech.ac.jp/>



2017-22年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター
2019年度 事業報告書

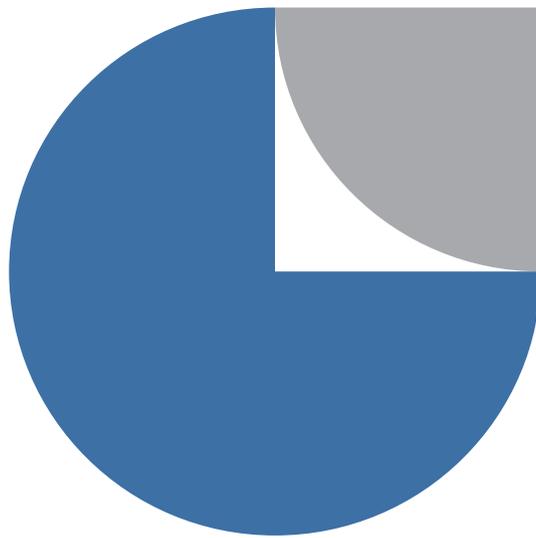
発行：国立大学法人 名古屋工業大学
連絡先：国立大学法人 名古屋工業大学

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

E-MAIL：diversity-crew@adm.nitech.ac.jp

URL：https://diversity.web.nitech.ac.jp/

2020年3月発行



 国立大学法人名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL/FAX : 052-735-5121

E-mail : diversity-crew@adm.nitech.ac.jp

U R L : <https://diversity.web.nitech.ac.jp/>